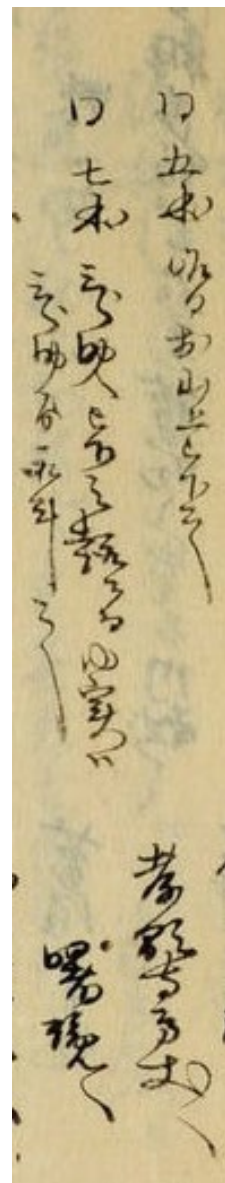


松平慶永（春嶽）と孝顕寺雪爪

孝顕寺^{せつそう}雪爪は 1858 年（安政 5）に松平慶永（春嶽）の要請を受けて孝顕寺住持となった人物です。松平文庫「御側向頭取御用日記」によると、慶永が在国した慶応元年には、慶永は家臣を伴った定例の菩提寺参詣以外にも、2 度にわたり孝顕寺雪爪の山房（椽栗山房）を訪れています。

また両者間の贈答なども頻繁に行われ、例えば 8 月 23 日には雪爪が山房で採れた椎の実や栗を献上し、9 月 5 日には足羽郡東郷の御立山（藩御用の山）での松茸狩りに雪爪が同行し、山上で慶永から松茸を拝領するなど（右写真）、両者の深い交流がみられます。

雪爪はのちに慶永の推挙で明治新政府に出仕し、神仏合同布教機関である大教院の初代院長として宗教政策に深く関わりました。



松平文庫「御側向頭取御用日記（11）」

（A0143-00521、慶応元年 9 月 6 日記、部分）